

11月は、学校の大きな行事も終わり、教師も子どもも落ち着いた気持ちになる時期です。この時期に、子どもたちが自分を見つめ直すとともに、学級の友とのかかわりについてじっくり振り返り、思いやりの心を育むことは、学級づくりの基盤になります。助け合い、支え合える学級づくりを進めるために、子どもも教師も人権感覚を育てていきましょう。



<小学校>

学級づくりをキャリア教育の視点からみると

子どもとの信頼関係を築き、一人一人を大切に  
する姿勢が人権感覚を育みます！

教師が豊かな人権感覚をもち、大切な存在として子どもと接することが、子どもが安心して学校生活を過ごす基盤となります。

【例】

- ☆教師が毎日、子ども一人一人の名前を呼んで元気の挨拶を！
- ☆子どもを呼ぶ時は不公平感なく「さん」付けで。
- ☆その日にキラリと輝く友だちへの思いやりのある行動などを帰りの会で紹介。

人権感覚とは

人権が擁護され実現されている状態を望ましいものとし、逆に人権が侵害されている状態を許せないものとして感知できる感覚

教師の日頃の姿が  
子どもの人権感覚の  
醸成に大きく影響

安全で、安心で、楽しい、豊かな学校生活

学期の振り返りをキャリア教育の視点で！

2学期の振り返りをキャリア教育の視点で行ってみませんか。例えば…

- ① 学級活動や日直、清掃、給食などの当番活動について、自分たちで課題や問題を解決できた場面を振り返らせる。【課題対応能力】
- ② 教科や道徳、総合的な学習などで学んだことが自分たちの生活にどのように活かされているかを振り返らせる。【キャリア・プランニング能力】
- ③ 振り返った内容を、ポートフォリオで積み重ねたり、保護者懇談会で話題にしたりして、成長を実感させる。【自己理解・自己管理能力】

小学校は、学級担任が1日の多くの時間を子どもたちと共に生活するので、キャリア教育の視点で子どもたちの成長をとらえやすいというよさがあります。教師がとらえた子どものよさや育ちを、子どもや保護者に伝え、更なるキャリア発達を促しましょう。



<中学校>

学級づくりをキャリア教育の視点からみると

学級全体の人権感覚を高め、  
互いを尊重できる学級に！

人権教育を通して、互いのよさやちがいを認め、自他を大切にできる人間関係を構築しましょう。

学級の間人権関係を円滑にする人権教育の授業

人間関係づくりの活動を取り入れ生徒同士、互いのよさやちがいを認め合いましょう。

(例) グループで、自分の思いや体験を語り合ったり、書いて伝え合ったりするようなアクティビティを行う。



家庭で人権問題を話し合う機会の設定

人権教育の授業の様子や生徒の感想を、学級通信等に掲載して家庭に発信し、保護者にも関心をもってもらいましょう。

(例) 授業後、家族と話し合えるような持ち帰り用の振り返りカードや、アンケートを工夫する。



職場体験での互いの学びをつなぎ、  
学級や学校での生活の見返しを！

多くの学校で職場体験学習が行われています。職場体験での互いの学びを紹介し合い、学級や学校での生活と結び付けたり、互いの学びの共通点を確認し合ったりする場をつくりましょう。



「職場でも、あいさつを大切にしていた」  
「清掃はおもてなしの心を表すものだった」  
「友だちと異なる職場に行ったのに、大切にしていることは同じだった」



社会で活躍されている方が大切にしていることと、自分たちが大切にしていることとの共通点や相違点について、職場から戻った生徒同士が意見交換する機会をもちましょう。これまでの学級や学校での生活で当たり前に行ってきたことが社会とつながっているということに気付いたり、活動の意義を改めて感じたりして、これからの生活への意欲が高まるのではないのでしょうか。